



チェアスキー狩野亮さん 学習シート

CENTERPOLE TIMES 2025

SEASON

GUEST ATHLETE 最高時速は100キロ以上で雪山を駆け降りるパラアスリート

狩野亮選手 チェアスキー

パラリンピック2大会金メダルのチェアスキー選手



北海道出身のアルペンスキー・チェアスキー選手。幼少期に車の事故で脊髄を損傷し車いす生活となるが、様々なスポーツと出会った中でチェアスキーに没頭し競技を開始。2006年トリノ大会でパラリンピック初出場後、2010年バンクーバーでは日本代表の主力として活躍。2014年ソチ大会では滑降とスーパー大回転で金メダルを獲得し、日本のパラアルペンスキー界を牽引する存在となつた。現在は競技活動を引退し、ジュニアアスリートの育成や、車いすユーザーの為の車椅子操作プログラムを推進している。

PROFILE

狩野選手のプロフィール

今回、皆さんの学校に訪問する、パラアスリート狩野亮さんのプロフィールの一部をご紹介します。他にも聞いてみたいことがあつたら狩野選手に質問してみよう！



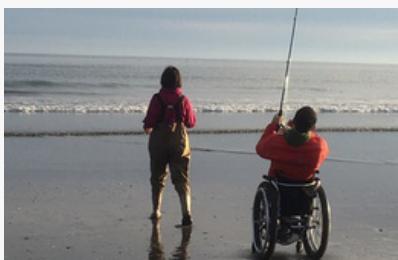
普段の活動は？

現在は選手を引退して、次の世代の育成普及活動を行なっています。
現在は講演会や体験会で全国飛び回っています。
オランダで勉強して車いすユーザーが自由に車いすを扱えるプログラムの普及もしていますよ！



競技との出会いは？

1998年の長野オリンピックでチェアスキーを見て僕もこの競技にチャレンジしたいと思ってスタートしました！
今まで他のスポーツもチャレンジしましたがスキーが一番です！



好きなものは？

釣りや料理が大好きです！
僕が住んでいるのが北海道なので鮭やカレイ釣れますよ！
秋だとなんといふときの鮭が釣れると事もあります！

HOW ABOUT

チェアスキーってどんなスポーツ？

最高時速は100キロ以上！ アイスバーンを切り裂きながら速さを競う競技

チェアスキーは、下肢に障害を持つ人が専用のチェア型スキーに座って行うアルペンスキー競技です。雪面に装着した一本のスキー板の上に椅子状のシートを固定し、両手にはバランスと推進力を補うアウトリガー（小さなスキーのついたストック）を使用します。スピード感あふれる滑降や正確なターンが求められ、技術と体幹の強さが勝負の鍵となります。障害の有無にかかわらず観客を魅了する迫力と美しさを持つ、冬季パラリンピックを代表する競技のひとつです。



INTERVIEW**今回の授業で一緒に考えて欲しいこと****狩野さんから考えてもらいたいメッセージを記載****— 狩野選手にとって障がいってどういうものだと思いますか？**

私にとって障がいは、当たり前の“状況”といった感じです。

もちろん、初めは落ち込み戸惑いましたが、その状況を受け入れ前に進んだことにより、障がいというものが特に大きな要素ではなくなりました。誰にとっても目の前に現れる壁（障がい）は、時には苦しいこともあるかもしれません、次の世界へと導いてくれるきっかけになる場合もあるかも知れません！

— 怪我をしてから障がいに対する考え方の変化はありましたか？

8歳の時事故にあったので、怪我をしてからの人生の方が長くなりました。怪我をする前は障がいや障がい者のことを深く知る機会はありませんでしたが、パラリンピックの世界でたくさんの選手・障がいに出会いました。誰もが生き生きとチャレンジすることに障がい（状況）は全く関係ないと今は思っています。

— 今回の授業をきっかけにみんなに考えてもらいたいところはありますか？

“知らない目線に立ってみる” “みんなにはたくさんの可能性がある” “大丈夫、きっとなんとかなる” これらのことを感じてもらい、この先の時間に繋げてもらえると嬉しいです！

皆さんもこの機会に、“障がい”って何か考えてみよう！

きっと正解はこれからみんなが生活していく中で見つかるものかもしれませんね

NOTICE**狩野亮さんの活動をもっと知ってみよう！****授業だけで狩野さんの事を知ることができなかつたみなさんはこちらもチェック！**

もっと選手のことを知りたい方は、活動の様子やインタビュー記事をぜひチェックしてみてください！センターポールの公式サイトでは、パラアスリートたちのプロフィールや競技への思い、イベント情報などを掲載中。さらに、選手本人のSNSでは、日々のトレーニングや試合の舞台裏など、リアルな姿が発信されています。
応援の一步を踏み出そう！

**REQUEST****ぜひアンケートにご参加ください****パラスポーツで社会をもっとポジティブに！皆さんのご意見をお聞かせください。**

私たちセンターポールはパラアスリートと一緒にパラスポーツでみんながスポーツを楽しめる社会を目指しています！今回の授業に参加して「こんな制度があつたらいいな」「こんな話が印象に残った」など、あなたの意見をぜひ聞かせてください！

■回答方法 画像のQRコード「アンケートフォーム」から

■回答締切 2026年3月末まで

■対象 交流授業にご参加いただいた企業、教員、保護者の皆様

アンケートフォーム ➞

